

## コロナ禍において生じた困りごとについて (令和2年度第2回市民会議より一部抜粋)

### 意思疎通・障害特性理解

#### ①視覚障害

- ・通常の通院であっても同行援護の利用が頼みにくくなったという話も聞く。
- ・視覚障害者が街中で声をかけてもらえなくなったという話も聞く。
- ・国や自治体からの「三密の回避」という要請を、「しゃべってはいけない」「触れてはいけない」と誤解している人たちが非常に多い。「買い物は一人で」という要請も、視覚障害者にはかなりつらい。要請をそのままでは守りたくても守れない人たちもいることを、どうかご理解いただきたい。そのうえでフォローの対策を講じてほしい。
- ・モノに触ることや、社会的距離を保つことに敏感になっているため、買い物の際に一つ一つの商品を手に取り、目を近づけて見なければならなかったり、あるいは見えないために前後の距離を保てなかったりするロービジョンの人に対し、厳しい言葉を浴びせたり、こちらが危険を感じるような行為を行う人がいた。

#### ②聴覚障害

- ・マスク着用により相手方の口元・表情が見えなくなり、聴覚障害のある人にとっては意思疎通が困難になった。その場に複数人いる場合、誰が発言しているかの見当もつけにくい。
- ・話しかけられていることが分からないが、無視していると捉えられることもある。
- ・手話通訳者は透明マスクを着用するが、感染防止対策としては万全ではないことに不安を感じている。
- ・視覚障害者は体や顔全体で情報を感じ取っているため、マスクをつけていることで感覚が鈍り、不自由・不自然さを感じる。
- ・筆談をしてもらおうが、相手が持っていないと、自分の紙やペンを渡すことは相手も嫌がるだろうと思ってできない。
- ・きこえない・きこえにくい人が医療機関等で診察を受ける際には、手話言語通訳や要約筆記を介することが多くあるが、同行する通訳者への感染のリスクが懸念される。

#### ③知的・発達障害

- ・マスク着用については、障害の特性によって、心理的、物理的にマスクに違和感を持ち着用が困難な児童もいる。
- ・こだわりが強く、マスクを着けていない人に注意してしまう。
- ・マスクの必要性を理解できない人もいた。
- ・発達障害の人は特に、その場の状況に合わせた行動をとることが苦手なことが多い。また、「ちょうどよい加減」というのが難しい。人と話をする際、相手との距離感や声の大きさなどの調整が困難。手洗いなど、徐々に丁寧さが落ちてきた。洗ったりしているが雑になってきているように思う。見えないものへの注意は難しい。

## 面会

- ・学校や施設等において、学校公開・面会・イベントの機会減。児童や利用者にとってはそれがストレスとなっている。
- ・施設入所者との面会禁止が続く。

## 就労関係

### 障害当事者

- ・就労継続支援事業所が一時的に休業、時短勤務となったが、今後フルタイムで働くようになることを考えると、体力の低下が不安要素になると感じる。
- ・給与が下がった。
- ・仕事をクビになった。
- ・自宅待機となったが補償が無かった。

## オンライン・ICTに関するもの

- ・テレワークなどした場合 PC 使用で目や部位が悪くなる。
- ・外出制限があり、電話連絡するしかなかった頃、高次脳機能障害当事者は、電話連絡が苦手なので、メールを使うことが多いが、高齢の当事者の場合、メールも使えずに、今でも連絡できないことが多くある。

## 生活面

- ・病院に行くのが難しいなどの支障が生じる。〈オンライン診療 etc〉。
- ・買い物等の外出時、筆談では時間がかかり、後ろに行列ができてしまうこともある。それがストレスとなり、家に閉じこもってしまう人もいる。
- ・電子決済が増え、お金の管理ができなくなった。
- ・これまで サイフからお金を出してもらって買い物をしていたが頼めなくなった。
- ・ヘルパーが感染もしくは濃厚接触者となった際に、要援護者が慣れた人でないと受け入れられない場合が想定される。
- ・手すりを使って歩いていたがウイルスが怖くて歩けず公共交通機関を利用できない。
- ・家ごもりが続きストレスがたまる。
- ・当事者会や家族会が一時期中止となり、「定期的に外に出る習慣」がなくなってしまう恐れがあった。再開後も公共交通機関を利用する人も多く、移動中の感染に不安を感じる。
- ・非常事態宣言発令中の通勤時、「障害者のくせに出歩くな。」といった類の暴言を浴びせられることが複数回あった。(障害者が仕事のために通勤しているとは思っていない様子だった。)
- ・店舗の無人化・セルフサービス化が進んでおり、視覚障害者がアクセスできない形態でのセルフサービスが進むと不便となってしまうことを心配している。

## 感染予防

- ・食事の介助が必要な児童には、口周りや姿勢維持のためどうしても密接なサポートが必要となり、支援者側の予防が不可欠。

- ・日中の生活介護 ショートステイ、移動支援を利用しているので感染したら3つ以上の事業所に感染させてしまうことが心配。

#### その他

- ・公的な施設が閉まっています。集まれず、情報を得る場が失われた。